

オーストラリア「異文化体験」演習

担当教員：国際教育交流センター 瀬戸山晃一、宮本美能、モナシュ大学語学講師

【目的】

本コースは、多様な人種が共生するオーストラリアのモナシュ大学で英語によるプログラムを受講し、実践的な英語のスキルやコミュニケーション能力を養い、在学中または卒業後のより長期の海外留学に繋げること、また、オーストラリアの歴史や文化を学び、体験することを目的としています。さらに、オーストラリアではホームステイをすることで、生活を通して「異文化」に触れ、グローバルな視野や多様な価値観をもつ他者への理解と寛容性を高め、国際的素養を身につけることを目指します。

以上の目的を達成するために、まず渡航前に大阪大学で研修を行い、海外経験のない学生であっても英語の授業を受けるために最低限必要な予備知識や、健康・安全管理、海外で気をつける点などを学び、各々が目的意識を持って海外で有意義な生活体験ができるように備えます。また、出発前の12月に大阪大学で開催予定の日豪文化交流会に参加し、日本語を学ぶオーストラリアの留学生と知り合う機会を持ち、語学学習パートナーとして出発前、そして現地滞在中も交流を続け、言語・文化交流を深めます。帰国後は、語学研修の成果や異文化体験を中心とした内容の英文レポートを作成し、提出して頂きます。

【対象学生】

本学の学部・大学院に在籍する正規生

※平成24年3月卒業・修了予定の学生は、本科目の履修は不可とする（研修プログラム自体への参加申請は可能）

【履修申請方法】

「モナシュ大学春季語学研修プログラム」への参加申請を以て履修申請とする

※KOAN登録は不要

【コース概要・課題等】

原則として、以下の全ての研修に参加し、全ての課題を提出することを単位修得（2単位）の条件とする。

1) 事前研修（モナシュ大学学生との交流学習会）

日時：2011年12月23日（金・祝日）10:00～17:00

場所：吹田キャンパス ICホール2階 講義室5・6

および国立民族学博物館（万博記念公園内）

2) 事前オリエンテーション、プレイスメントテスト

日時：2012年1月13日（金）9:00～15:00（予定）

場所：吹田キャンパス ICホール2階 講義室5・6

- 3) 現地研修出発前の TOEFL iBT または IELTS 受験 (未受験者のみ)
過去に TOEFL iBT または IELTS を受験したことがない研修参加者は、現地研修出発前 (2012年2月26日 (日) 以前) の TOEFL iBT または IELTS を受験すること (受験料自己負担)。
試験結果については、帰国後に受験する TOEFL iBT または IELTS (出発前と同じテストを受験すること) の結果と併せて、スコアシートのコピーを所属学部・研究科の教務担当窓口を通じて国際交流オフィス学生交流推進課学生交流推進係に提出すること。
- 4) モナシュ大学 (オーストラリア・ビクトリア州) での現地研修
研修期間: 2012年2月27日 (月) ~ 2012年3月30日 (金)
旅行日程: 出発 2012年2月25日 (土) 関西空港発~メルボルン着 (26日)
帰国 2012年3月31日 (土) メルボルン発~関西空港着 (4月1日)
研修内容: 英語研修、オーストラリア文化学習、ホームステイ等
(一橋・九州・名古屋・お茶の水女子・埼玉・東京学芸大学とのジョイントプログラム)

※旅行日程は利用する航空会社によって変更となる可能性あり

※諸事情により、研修期間が一週間短縮され、2012年2月27日 (月) ~ 2012年3月23日 (金) となる可能性があり、その場合は、11月末頃に履修希望者が申請書に記載したメールアドレス宛に期間短縮に伴う改定後の参加費等を含め通知する

5) 研修報告書 (英語) の提出

モナシュ大学の語学研修やホームステイをした体験から、学習内容面と異文化体験について英語でレポートを作成し、2012年4月6日 (金) までに、データをメール添付にて科目担当教員の宮本 (mmiyamoto@isc.osaka-u.ac.jp) に送信すること。提出期限を過ぎた場合は、減点対象とする。報告書内容には、以下の5項目のうち少なくとも2つ以上を含むこと:

- ① 出発前に抱いていたオーストラリアの印象、固定観念が、実際に体験することで具体的にどのように変化したか?
- ② 現地研修を通して新たな洞察や知見で最も重要だと感じたもの
- ③ 現地でホストファミリーと生活を共にする中で体験した具体的なエピソード
- ④ 異文化という観点から現地滞在を通して学んだこと
- ⑤ 帰国後、どのように研修で学んだことや異文化経験を活かしていきたいか

※写真や注や参考資料の添付を除いて、Times New Roman12 ポイントの大きさと、本文シングルスペース 2.5 頁以上 4 頁以内 (ダブルスペースの場合は 4.5 頁以上 6 頁以内)

6) 帰国後2週間以内の TOEFL iBT または IELTS 受験 (受験料自己負担)

現地研修出発前に予約のうえ、帰国後2週間以内(2012年4月15日(日)以前)に TOEFL iBT または IELTS を受験し、2012年5月15日(火)までに、スコアシートのコピーを所属学部・研究科の教務担当窓口を通じて国際交流オフィス学生交流推進課学生交流推進係に提出すること。現地研修参加前にも受験した履修者は、そのスコアシートのコピーも併せて提出すること。

※IELTS について、帰国後2週間以内に受験できる試験日がない場合は、本科目担当教員の宮本 (mmiyamoto@isc.osaka-u.ac.jp) および国際交流オフィス学生交流推進課学生交流推進係に連絡のうえ、直近の試験を受験すること。

【成績評価】

評価基準・評価対象は以下の通りとし、原則として、全ての研修に参加し、全ての課題を提出することを単位修得(2単位)の条件とする。

※成績判定は5月下旬以降の予定

評価基準

S 90点以上, A 80 ~ 89点, B 70 ~ 79点, C 60 ~ 69点, F 59点以下

評価対象

- 1) 事前研修(危機管理・交流会・事前オリエンテーション) (15%)
- 2) 出発前(未受験者のみ)、帰国後の TOEFL iBT または IELTS 受験 (15%)
※出発前と帰国後を比較し、伸び率を評価する。
- 3) オーストラリアでの研修の成績 (40%)
- 4) 報告書の提出(英語) (30%)